

マタイ 41

自分の命を捨て 主の命に生きる

マタイ福音書16:13～28

ペテロの信仰告白

Shikaoichurch.com

アウトライン

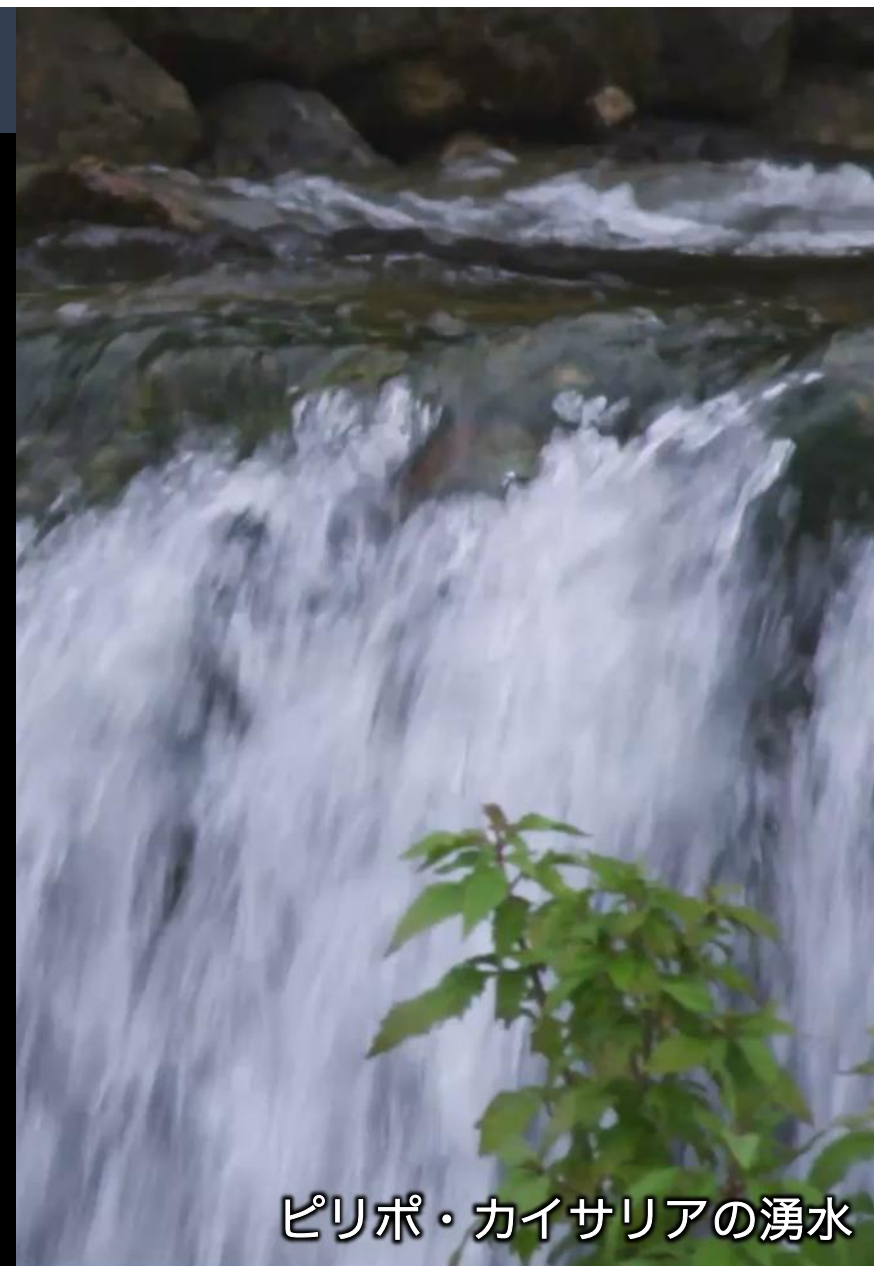
0. イントロダクション

I. ペテロの信仰告白 16:13～20

II. ペテロの過ち 16:21～28

III. まとめと適用

自分のいのちを捨て
主のいのちに生きる





0. イントロダクション

カペナウムの再現図

メシアの生涯

宣教 → 拒絶 → 弟子訓練 → 十字架へ

イスラエル
(指導者)

バプテスマ

荒野の誘惑

弟子の召命

宣教開始

メシア的奇跡

安息日論争

ベルゼブル論争

たとえ話

五千人の食事

ペトロの信仰告白

山上の変容

最後の弟子訓練

エルサレム入城

最後の晩餐

紀元70年
エルサレム陥落



メシアの活動は、弟子訓練に移行!!

- 主イエスは、**教会**の礎を築き始められている
 - ➡ 訓練された使徒たちが、**教会**の土台に!!
- 教えと奇跡も、弟子たちの訓練のために実行。
 - ➡ 弟子たちだけに解説される、**たとえ話**
 - ➡ 弟子たちの前で実行される、**奇跡**
- 命を狙われ、イエスは各地を巡りつつ教えられた。
 - ➡ **弟子訓練もいよいよ終盤に!!**



I. ペテロの信仰告白

マタイ福音書16:13～20

ピリポ・カイザリア(パニアス)

本編

ピリポ・カイサリアで マタイ16:13a

さて、ピリポ・カイサリア*の地方に行かれたとき、

*現在の呼び名は、パニアス(アラビア語)

パネイオン(ギリシャ神のパン神の聖所)

パン神…山羊の半身半獣の神

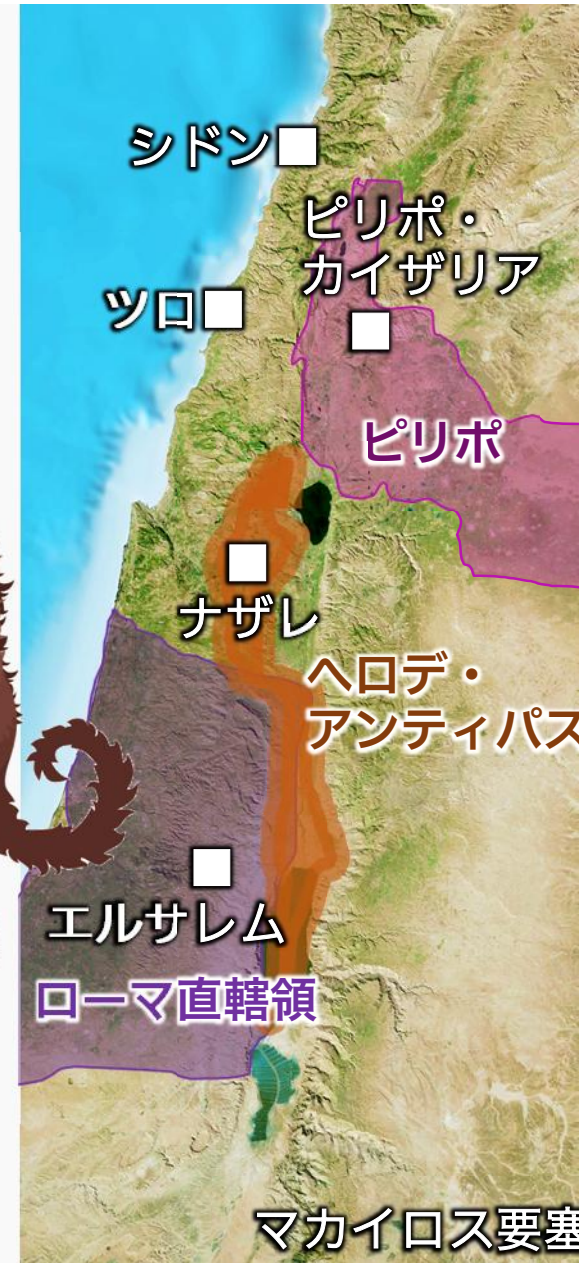
性的シンボルにも

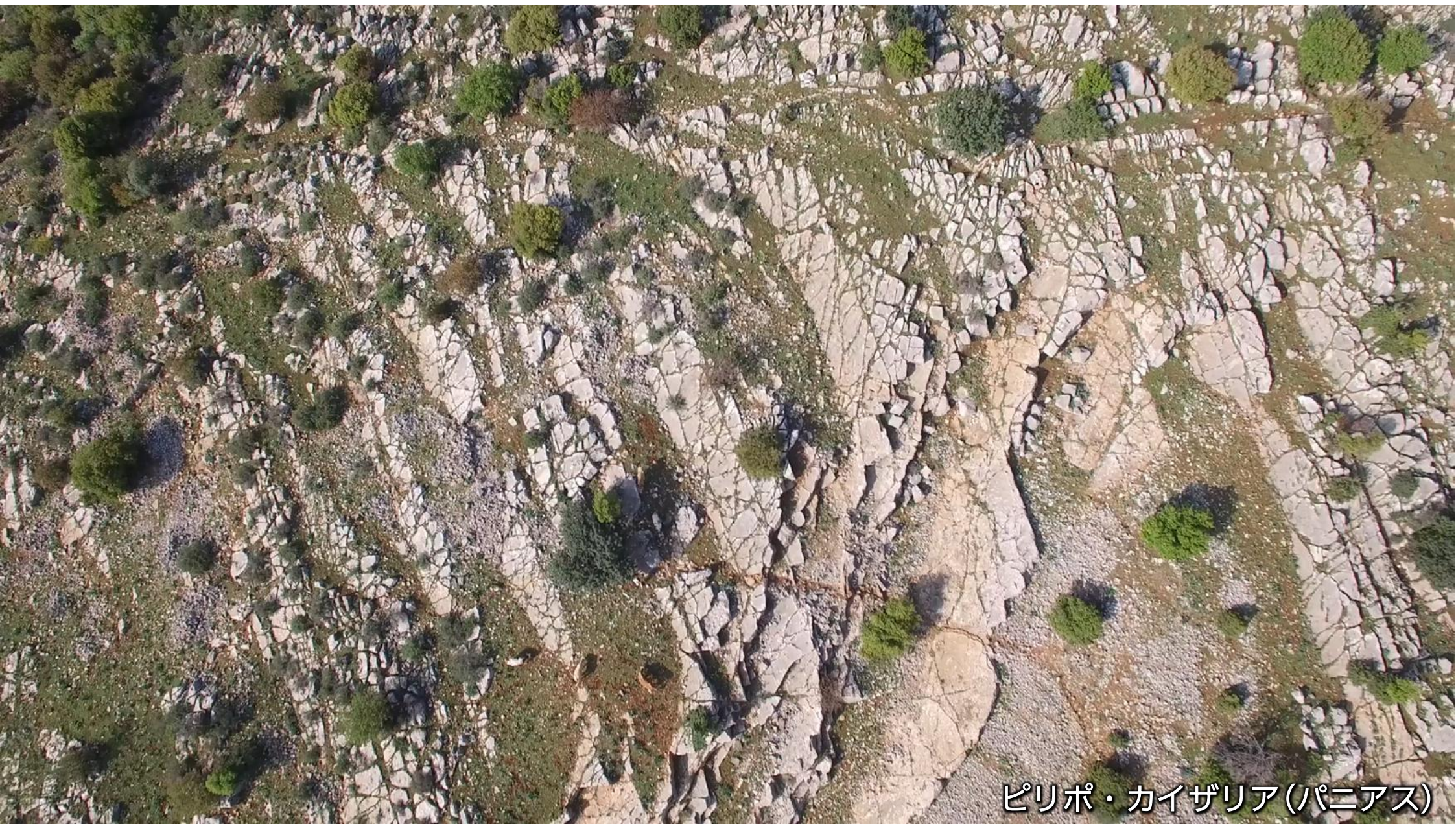
後に悪魔の象徴に

ピリポの領地。北部のローマ風の都市。

ヘロデ大王が、皇帝アウグストゥスから贈与、

神殿を建設。子の領主ピリポが自分の名を付す。





ピリポ・カイザリア(パニアス)

本編

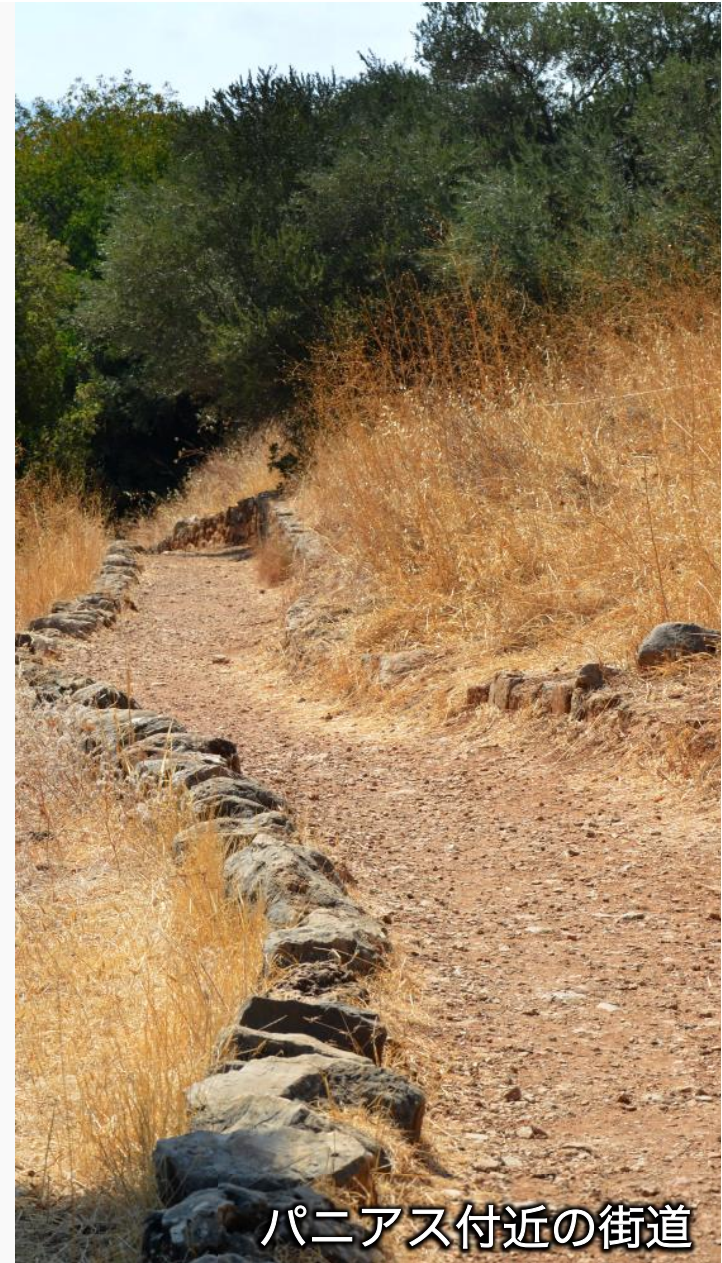
イエスの質問 マタイ16:13b

イエスは弟子たちに「人々は**人の子***をだれだと言っていますか」とお尋ねになった。

＊“人となられた神の子” …メシアの呼称

➡メシアの人性を強調、初臨の受難のメシア

「詩80:17 あなたの右にいる人の上に御手が
ご自分のため強くされた人の子の上に御手が
ありますように。」



パニアス付近の街道

本編

人々の主張 マタイ16:14

彼らは言った。「バプテスマのヨハネ*だ
と言う人たちも、エリヤ*だと言う人たちも
います。またほかの人たちはエレミヤ*だと
か、預言者の一人だとか言っています。」

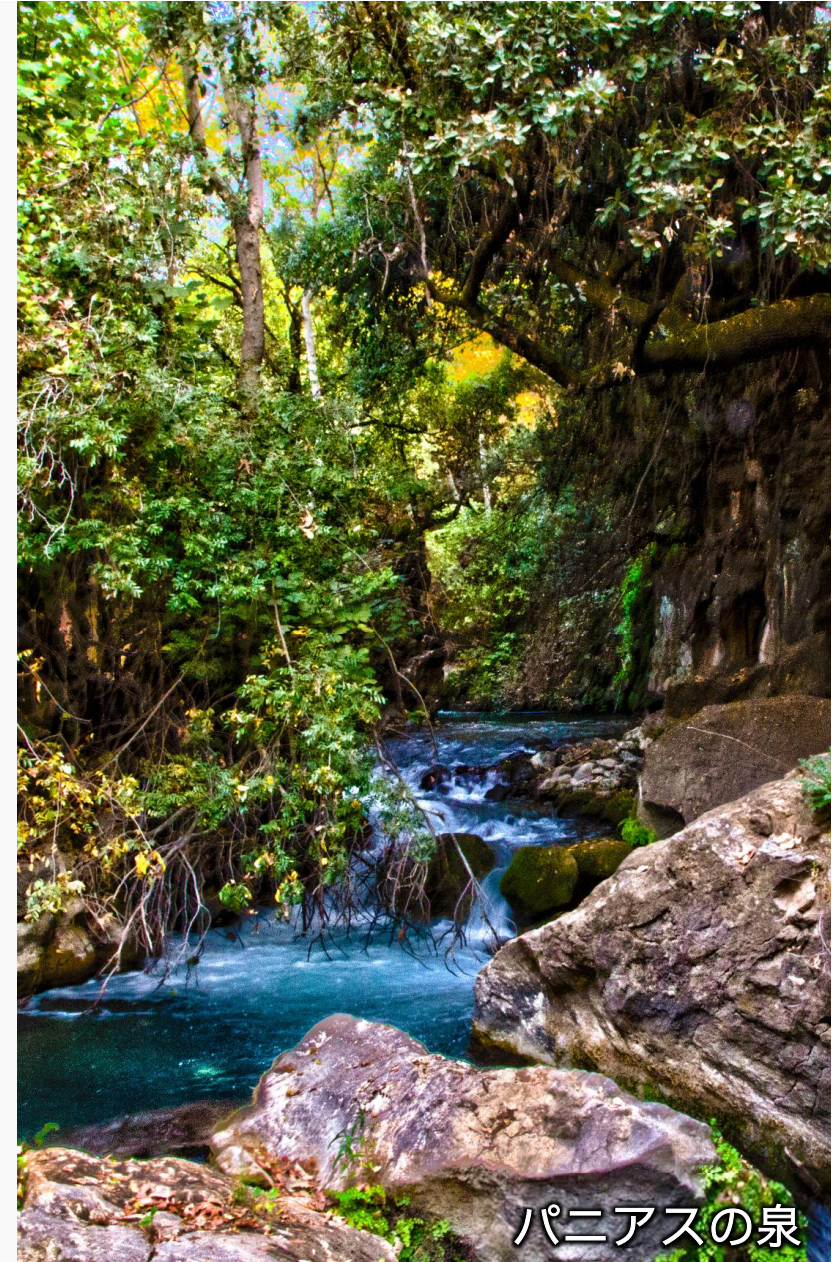
■ メシアに関連しているが、みなハズレ。

＊メシアの先駆者

＊生きて天に挙げられた

➡メシアの先駆者

＊厳しく迫害された、涙の預言者



パニアスの泉

本編

イエスの問い 16:15～16

イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」

シモン・ペテロが答えた。「あなたは生ける神*の子キリストです。」

＊反対は、死んだ偶像の神

■ イスラエルの生ける神 申 5:26

「いったい肉なる者で、私たちのように、火の中から語られる**生ける神**の声を聞いて、なお生きている者があったでしょうか」



パニアスの泉

本編

イエスの問い 16:16

「あなたは生ける神の子*キリスト*です」

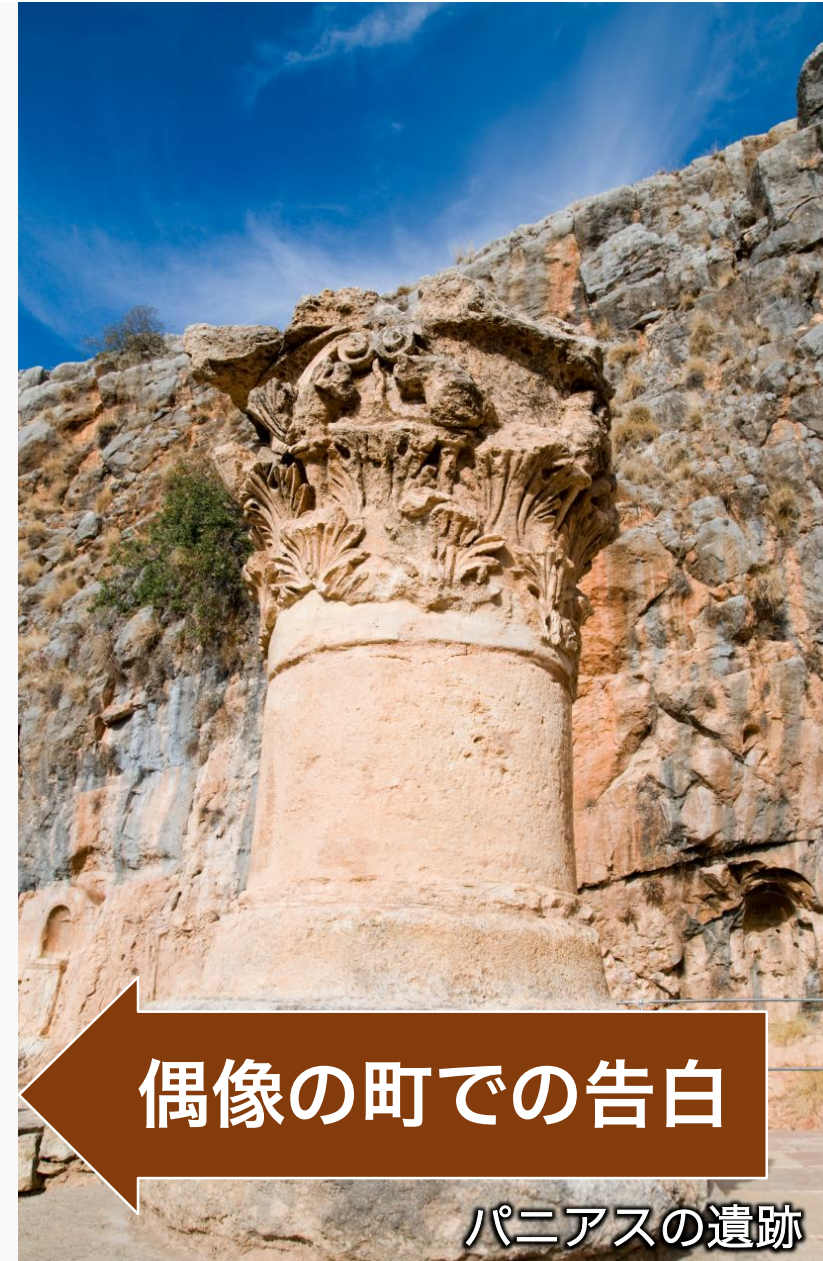
*“○○の子” …○○の性質

「雷の子」 …雷のような激しい性質

唯一の神と同じ性質 “神の子 = 神”

*メシア(ヘブル語) …主に油注がれた者、
救い主、王

イエスは、イスラエルの生ける神主に
油注がれたメシアである



偶像の町での告白

パニアスの遺跡

本編 主による告白 マタイ16:17

すると、イエスは彼に答えられた。

「バルヨナ*・シモン、あなたは幸いです。
このことをあなたに明らかにしたのは血肉ではなく、天におられるわたしの父です」

*“ヨナの息子”“ヨナ＝鳩” …信仰の忠実さ
…父の名、正式名称でペテロと呼ばれた
■告白は、父なる神が導き出されたこと。
ペテロの手柄ではないと明言されたが…。



パニアスの湧水路

本編 岩の上の主の教会 16:18a

そこで*、わたしもあなたに言います。
あなたはペテロ*です。わたしはこの岩*
の上に、**わたしの教会**を建てます。

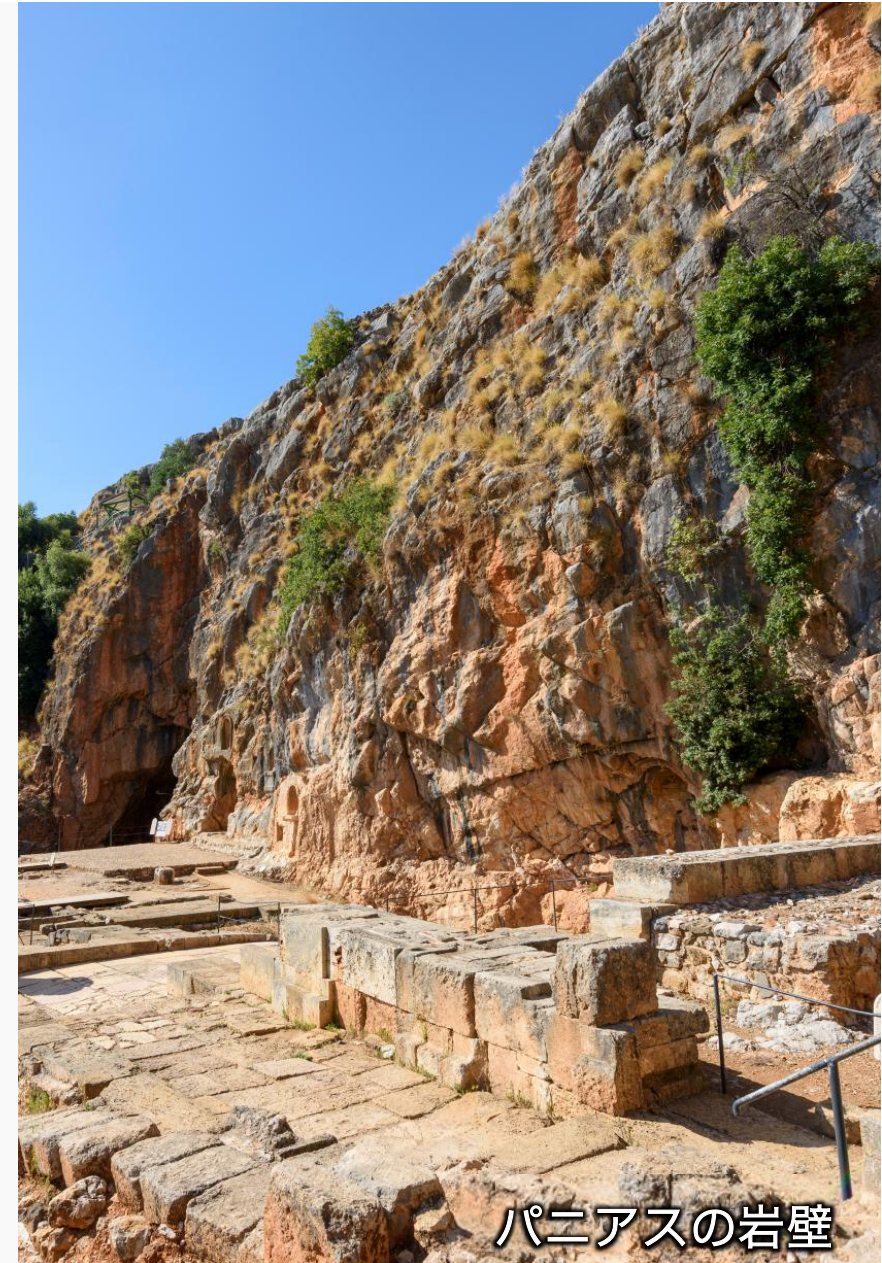
*ペテロの手柄ではないと明示の上で

*“小さな岩”

*“大きな岩・岩盤”

= 主が引き出された信仰告白

**主は、正しい信仰告白の上に
主の教会を建てられる**



パニアスの岩壁

本編

岩の上の主の教会 16:18b

わたしはこの岩*上に、**わたしの教会**を建てます。よみの門*もそれに打ち勝つことはできません。

＊“門”は、“裁きの場”

…どんなに深い闇の勢力も、教会(真の信者)を有罪として裁くことは不可能。



パニアスの岩壁と湧水路

本編

天の御国の鍵 マタイ16:19

「わたしはあなたに天の御国の鍵*を与えます。あなたが地上でつなぐ*ことは天においてもつながれ、あなたが地上で解く*ことは天においても解かれます。」

＊“主イエスの福音” …21節で早速示す

➡イスラエル、サマリア、異邦人へ

＊拘束・捕縛 …有罪判決

＊解放 …無罪判決

■使徒たちによって伝えられた福音を
信じるか拒むかで、永遠の運命が決定。

ペテロはあくまで器
主権者ではない



パニアスの湧水路

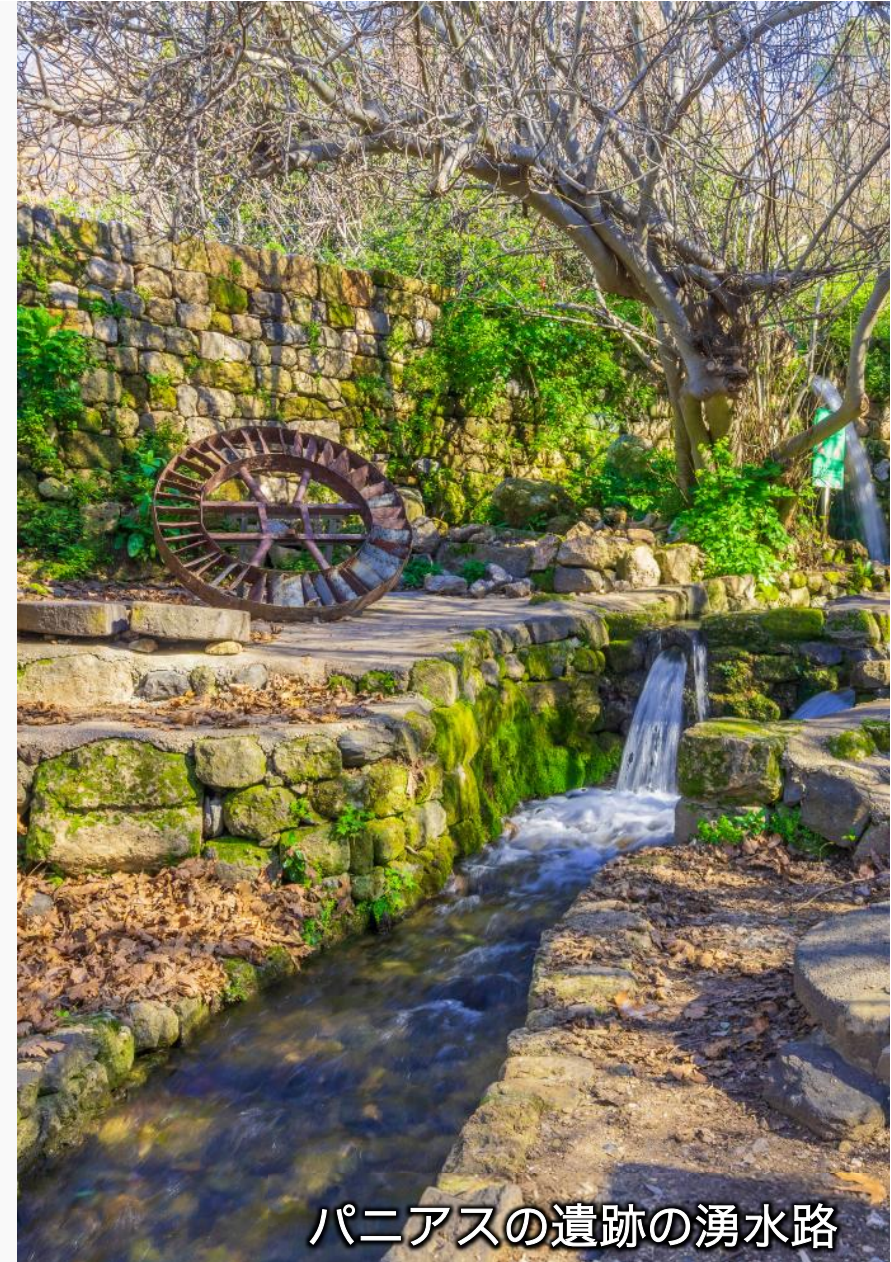
本編

禁じられた告白 16:20

そのときイエスは弟子たちに、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない*、と命じられた。

- イスラエルは、公式にメシアを拒絶。
➡ イエスを信頼する者だけに真実が!!

かたくなにされた者に、
真理の御言葉は届かない



パニアスの遺跡の湧水路



Ⅱ. ペテロの過ち

マタイ福音書16:21～28

本編

示された福音 マタイ16:21

そのときからイエスは、ご自分がエルサレムに行って、長老たち、祭司長たち、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、三日目によみがえらなければならない*ことを、弟子たちに示し始められた。

*メシアの十字架の死と復活の福音

■救いの真髄である福音が、始めて開示。

→福音こそ、信じる者を滅びから救う、使徒に託された、天の御国の鍵(19節)



パニアスの遺跡

本編 ペテロの傲慢 マタイ16:22

すると、ペテロはイエスをわきにお連れして、いさめ始めた*。「主よ、とんでもないことです*。そんなことがあなたに起こるはずがありません。」

*“叱りつける、厳命、警告”

➡メシアに対して完全に上から目線

*“主があなたを憐れまれるように”

■ペテロは、メシアの福音を拒絶!!

メシアを叱りつける傲慢の極みに!!



パニアス

本編

イエスの叱責 マタイ16:23

しかし、イエスは振り向いてペテロに言われた。「**下がれ、サタン***。あなたは、**わたしをつまずかせる***ものだ。あなたは神のことを思わないで、**人のこと***を思っている」

＊これ以上に厳しい叱責はない。

＊メシアに罪を犯させる ➡サタンの誘惑

「マタイ18:7 つまずきが起こるのは避けられませんが、つまずきをもたらす者はわざわざいのです。」

＊主の計画の成就ではない、人の願望



パニアスの湧水路

本編 弟子の覚悟 マタイ16:24～25

それからイエスは弟子たちに言われた。
「だれでもわたしについて来たいと思う
なら、自分を捨て、自分の十字架を負っ
て、わたしに従って来なさい。

自分のいのちを救おうと思う者はそれを
失い、わたしのためにいのちを失う者は
それを見出すのです。」

弟子にも求められる十字架の覚悟



パニアスの岩壁

本編 世にあるいのち マタイ16:26

人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら何の益があるでしょうか。そのいのちを買い戻すのに、人は何を差し出せばよいのでしょうか。

- 地上の肉体に伴う「いのち」は…、
 - ➡ 死んだら、地上の富はすべて失う。
 - ➡ 命を買い戻すことなどできない。

主が突きつける、命の現実!!



パニアスの泉

本編

裁き主イエス マタイ16:27

人の子は、やがて父の栄光を帯びて御使いたちとともに来ます。そしてそのときには、それぞれその行いに応じて報います。

■主イエスは、裁き主・王として再臨。

➡拒絶する者には、永遠の滅び

➡信じる者には、永遠の命

主はそれぞれの信仰に報いを与える

初臨の十字架の死と復活 再臨までが告げられた!!



パニアス近郊

本編

栄光の主 マタイ16:28

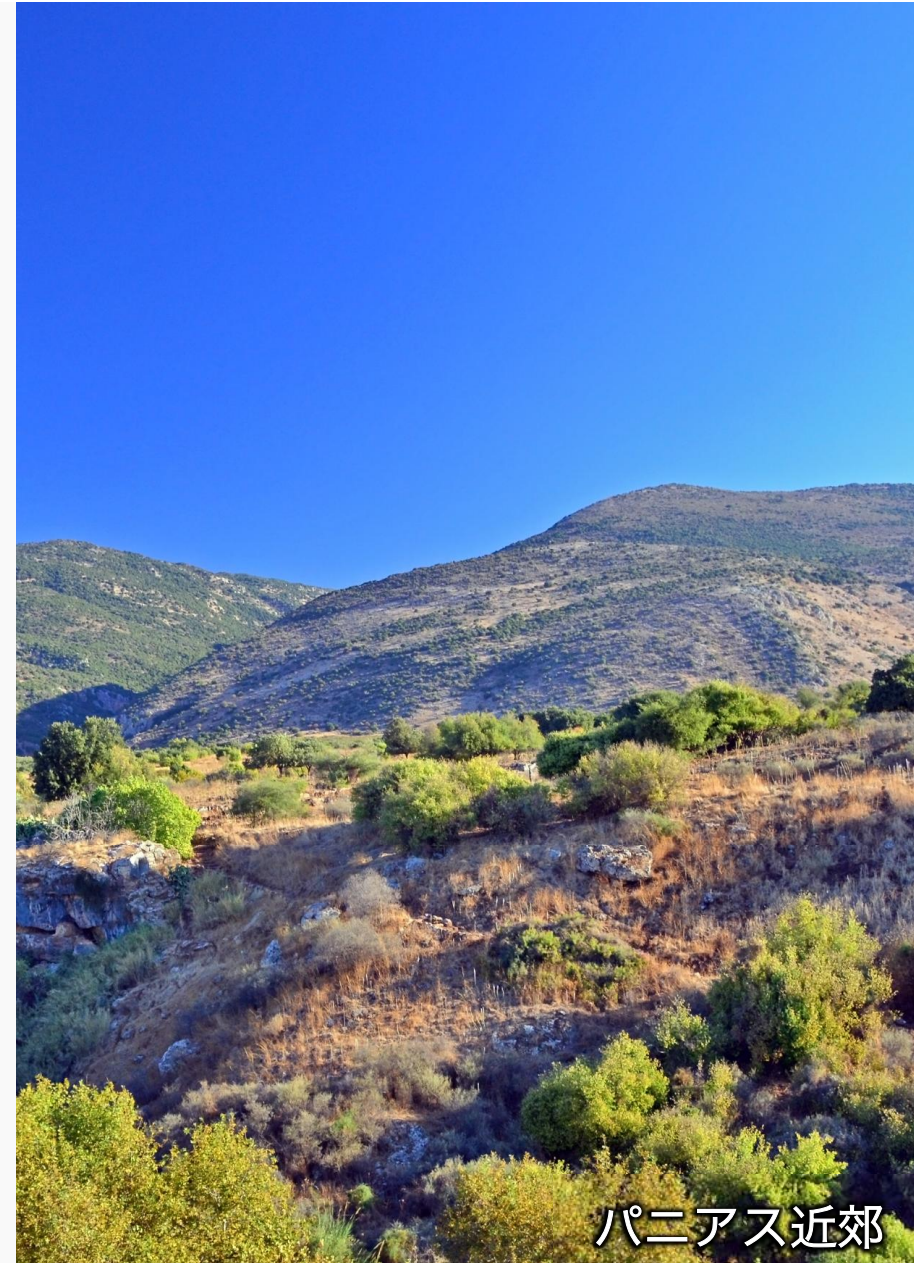
まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人たちの中には、**人の子が御国とともに来るのを見るまで、決して死を味わわない***人たちがいます。」

＊湾曲的な言い方

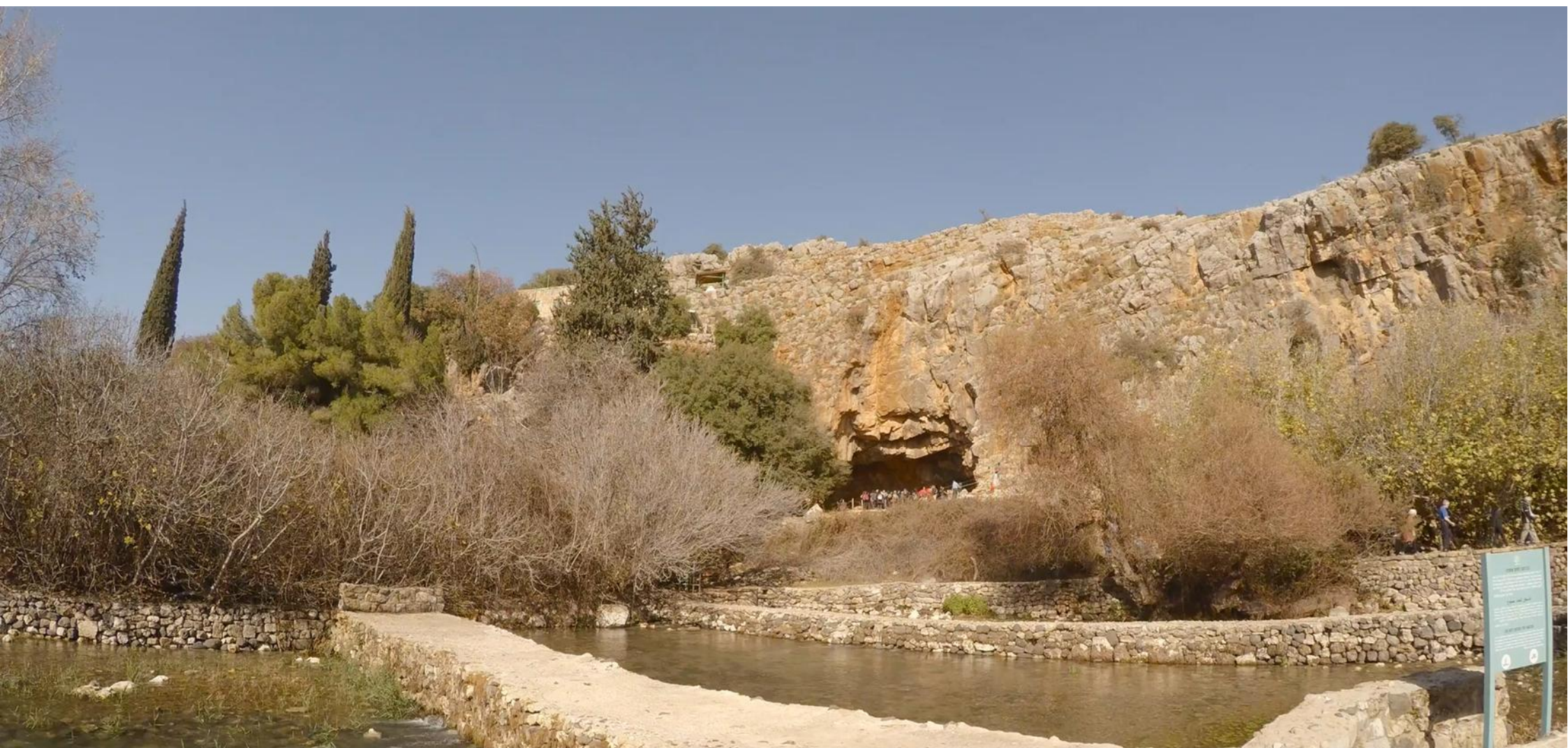
➡栄光のイエスを見る弟子がいる

■その内実は、次章で明らかに!!

➡ヘルモン山頂での栄光の主の顕現



パニアス近郊



Ⅲ. まとめと適用 自分のいのちを捨て 主のいのちに生きる

パニアスの岩壁と湧水

ペテロの信仰告白

「あなたは生ける神の子キリストです」

■ イエスは…

- ① **生ける神** …イスラエルの生ける神 = 唯一の創造主
- ② **神の子** …唯一の神と同質
- ③ **キリスト** …主が油注がれた王・救い主

まず求められたのは、イエスをメシアとして信じること

続いて明らかにされた 「福音」

「そのときからイエスは、ご自分がエルサレムに行って、長老たち、祭司長たち、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、三日目によみがえらなければならないことを、弟子たちに示し始められた。マタイ16:21」

■ イエスを神の子メシアとして信じた弟子たちは、十字架で死んで復活されるメシアを信じる信仰へ。

教会時代に信じるべき 「福音」が明らかに!!

ペテロの過ちの本質

■ 主イエスの**福音**(十字架の死と復活)を拒んだ。

→「そんなことがあってはなりません」 メシアを叱責

■ サタンは、**福音**を妨害。

→十字架を経ないで王にしてやろう(荒野の誘惑:4章)

■ 「さがれサタン」 = ペテロはサタン同様、**福音**を妨害

→固執したのは、神の計画ではなく、人の願望・欲望

警告されていた、ペテロの過ち

「このことをあなたに明らかにしたのは血肉ではなく、天におられるわたしの父です。」

➡牽制されていた、歴史的信仰告白を自分の手柄にする傲慢!!

「わたしはあなたに天の御国の鍵を与えます。」

➡自分の手に、神の権威を握ったかのように誤解?!

「**自分のいのち**を救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者はそれを見出すのです。」

ペテロが捕らわれているのは、自分。自分のいのち

罪の本質が、「自分のいのち」

「ですから、わたしはあなたがたに言います。何を食べようか何を飲もうかと、**自分のいのち**のことで心配したり、何を着ようかと、自分のからだのことで心配したりするのはやめなさい。いのちは食べ物以上のもの、からだは着る物以上のものではありませんか。マタ6:25」

「**自分のいのち**を救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者はそれを見出すのです。マタ16:25」

自分のいのちに捕らわれるのが 滅びの道

「自分」という罪の源流

■ 人が自分で御言葉の是非を判断するのが、罪の本質 創3:4～5
すると、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。
それを食べるそのとき、目が開かれて、**あなたがたが神のようになっ
て善悪を知る者となる**ことを、神は知っているのです。」

そこで、女が見ると、その木は**食べるのに良さそう**で、目に慕わ
しく、またその木は**賢くしてくれそう**で好ましかった。

■ 主の明確な命令は、「食べるな。食べると死んでしまう。」

主との約束を自分の思いで勝手に判断 → 罪の源流

福音の是非を勝手に判断したペテロ

マタ16:22 すると、ペテロはイエスをわきにお連れして、いさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあなたに起こるはずがありません。」

- メシアが苦しみを受け、殺されるなど受け入れられない。
人間的には当然の感情？ ➡それがサタン同様の罪

主の約束 主の計画に反するのが 罪

明確な 主イエスの命令

「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の**十字架**を負って、わたしに従って来なさい。」

■主イエスの弟子に求められるのは、**十字架**を負う覚悟。

➡世には、つまずき、愚かなもの(1コリ1:23)。

➡世から、嘲られ、辱められる(ルカ18:32)

自分の十字架を負っているか？

自分を十字架につけた者として

「キリスト・イエスにつく者は、**自分の肉を、情欲や欲望とともに十字架につけた**のです。

私たちは、御霊によって生きているのなら、御霊によって進もうではありませんか。

うぬぼれて、互いに挑み合ったり、ねたみ合ったりしないようにしましょう。ガラテヤ5:24～26」

■ 十字架を負った私たちは、「**自分のいのち**」を十字架につけた。

私たちは、ただ主に従うために御言葉を学ぶ。

他者にひけらかすための学びは、自分の肉でしかない。

御言葉の学びすら、「自分のいのち」のために…

「うぬぼれて、互いに挑み合ったり、ねたみ合ったりしないようにしましょう。ガラテヤ5:26」

■ 知識の誘惑 …他の信仰者への優越感。他者の評論、評価。

例) ディスパンセーションへの誤解の元

■ 学びが学びで終わっているなら、何も学んでいない。

自分の満足、主張のため ➡ 「自分のいのち」が優先に!!

過去に属していた教会や指導者への批判を続けているなら？

➡ あなたも同じ穴のムジナ。悔い改めたらそれでいい。

嘲る者 分裂を引き起こす者

「終わりの時には、嘲る者たちが現れて、自分の不敬虔な欲望のままにふるまう。」

この人たちは、分裂を引き起こす、生まれつきのままの人間で、御霊を持っていません。ユダ1:18~19

■ 嘲り、他の信仰者への非難には要注意!!

例) 過剰に持ち上げ、手のひら返して非難。➡自分中心
いつまでも過去に属していた教会や指導者を非難…。

➡あなたも同じ穴のムジナ。悔い改めたらそれでいい

国籍が天にある者として

「…私はたびたびあなたがたに言ってきたし、今も涙ながらに言うのですが、多くの人が**キリストの十字架の敵**として歩んでいるからです。

その人たちの最後は滅びです。彼らは欲望を神とし、恥ずべきものを栄光として、地上のことだけを考える者たちです。

しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。

ピリピ3:18～20」

自分の十字架を負って主に従う者は、神の国の永遠の民

十字架の主イエスに招かれて①

Ⅰ ペテロ2:20～25

罪を犯して打ちたたかれ、それを耐え忍んでも、何の誉れになるでしょう。

しかし、善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、それは神の御前に喜ばれることです。

このためにこそ、あなたがたは召されました。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残された。

十字架の主イエスに招かれて②

Ⅰ ペテロ2:20～25

キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。

ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、正しくさばかれる方にお任せになった。

キリストは自ら**十字架**の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。

あなたがたは羊のようにさまよっていた。しかし今や、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った。

★ 自分のいのちを捨て、主のいのちに生きる ★

■ 私たちが、聖書を学ぶのは、
自分の命を捨て、自分の十字架を負って生きるため。
自分自身の罪に向き合うなら、悔い改めを促される。

■ 嘲り、苦難が、主に従い通した結果ならば、幸いだ。
自分のいのちを手放し、主のいのちに生きていこう。
打ち砕かれた身が、御霊で満たされていくように。

十字架で死なれ、復活された主イエスが共におられる

「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください。

私たちは、神のみ子、主イエス・キリストが、

①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

②墓に葬られ、

③三日目に復活されたこと、を信じます。

私たちは、自分を捨て、自分の十字架を負い、主に従います。

栄光の主が再び来られる時を待ち望みつつ、世に遣わされます。

打ち砕かれたこの身を、御霊によって満たしてください。

感謝して、主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン」